

「松の廊下でつかまえて」設定資料

事件日：1701年(元禄14年)3月14日(新暦4月21日)11:30過ぎ

早朝雨、六時頃に止んで十時頃は晴れ。風もなく暖か。夜に再び雨

討入り：1702年(元禄15年)12月14日(新暦1月30日)

<p>梶川与惣兵衛 頼照(55歳)</p>	<p>1647年生(77歳没) 下総国葛飾郡700石→事件後に武蔵国足立郡500石を加増され1200石 1657年 将軍家綱に初めて拝謁(10歳) 1663年 御書院番として出仕(16歳) 1684年 8/28 若年寄 稲葉正休による大老 堀田正俊への殿中刃傷に居合わせる(37歳) 1696年 本所奉行(49歳) 1697年 御腰物奉行頭、六位相当になる(50歳) 1700年 大奥御台所付き留守居番 「梶川与惣兵衛筆記」「抱き止めた片手が二百五十石」 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A2%B6%E5%B7%9D%E9%A0%BC%E7%85%A7</p>
<p>吉良義央 (61歳)</p>	<p>1641年生 従四位上 上野介 侍従 左近衛権少将 4200石 高家肝煎筆頭 1653年 将軍家綱に初めて拝謁(12歳) 1657年 従四位下 上野介に叙任(16歳) 1662年、初の上洛 1683年 初代高家肝煎に任命(42歳) 1698年 勅額火事で鍛冶橋の屋敷を焼失し、呉服橋に再建(57歳) 生涯で年賀使15回(1672-1699の27年で10回)、幕府の使者9回として上洛、これは高家の中でも格段に多い。 黄金堤を築き赤馬で巡検した名君という地元での評判を裏付ける資料は乏しい https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E8%89%AF%E7%BE%A9%E5%A4%AE</p>
<p>浅野長矩 (35歳)</p>	<p>1667年生 従五位下 内匠頭 赤穂藩五万石藩主 1680年(14歳) 母方の叔父の内藤忠勝が、家光の法要時に永井信濃守尚長を殺害。 1683年(17歳) 一度目の饗応役を務める。 直後に結婚(5月)、家老 大石頼母助良重が死去(5月)。6月に初めて領地の赤穂に入る。 1691年(24歳) 本所の火消し大名に任命、活躍する 1696年(29歳) 疱瘡にかかり一時危篤になったが回復。本所材木蔵の火番になる 1698年 10/9 江戸大火で吉良上野介が鍛冶橋邸を全焼。この時に火消しを指揮 1700年(34歳) 桜田門御番</p>

	<p>持病の「瘡」＝胸がふさがる、気がふさぐ、鬱、感情が激した時に胸が苦しくなる</p> <p>『赤穂義人録』 「長矩は人と為り強硬（また「武骨者」と傍注をつけている）屈下せず」</p> <p>『土芥寇讎記』 「長矩、智有りて利発なり。家民の仕置きもよろしき故に、士も百姓も豊かなり。女色好むこと、切なり。故に奸曲のへつらい者、主君の好むところにと随いて、色能き婦人を捜し求めて出す輩、出頭立身す。いわんや、女縁の輩、時を得て禄を貪り、金銀に飽く者多し。昼夜闇にあつて戯れ、政道は幼少の時より成長の今に至って、家老の心に任す」</p> <p>『諫懲記後正』 「将の嗜むべきは文道である。文なき将は必ず所行が疎かになる。長矩は文道なく、智恵なく、気質は威張らず、小心にして律儀とはいえ、短慮なれば、後々所行については、おぼつかなくなるだろう。 されども、長矩は、淳直にして、日常の行いは義に背くことがない。奢らず、忠誠心を重んじ、世間との付き合いもよいということならば、悪いとはいえない。 先年、奥方の下女について、少々、非道の沙汰（放火事件の対応）があつて、この頃もっぱら世間の聞こえがよくない。すでに、この家は危うきことなりと批判していたが、なんなく事がおさまった。 元来、長矩はいい政治が少ないので、領民からむさぼり、所行にも少々よくないことがあるのではないかといえる。そうなれば、長矩の行く末はとても危ぶまれる」 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%85%E9%87%8E%E9%95%B7%E7%9F%A9</p>
<p>伊達宗春 (19 歳)</p>	<p>1682 年生 左京亮 伊予吉田藩 3 万石 院使接待役を務める</p>
<p>徳川綱吉 (56 歳)</p>	<p>1646 年-1654 年(64 歳没) 1680 年、34 歳で将軍になり在職 21 年日 身長 124cm だったという説がある https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%B3%E5%B7%9D%E7%B6%B1%E5%90%89</p>
<p>柳沢吉保 (42 歳)</p>	<p>1659 年-1714 年(55 歳没) 事件時は柳沢 保明(やすあき) 左近衛権少将 出羽守 側用人 (大老格) 川越藩主 8 万 2000 石 1664 年 館林藩主だった綱吉に謁見(5 歳) 1675 年 家督を継ぐ 530 石(16 歳) 1681 年 300 石加増され 830 石(22 歳) 前年に幕臣になり小納戸役就任 1682 年 200 石加増され 1030 石(24 歳) 1686 年 1000 石加増され 2030 石(27 歳) 従五位下 出羽守</p>

	<p>1688年 新設された側用人に就任(29歳)、1万2000石の大名に 1690年 3万2000石 従四位下に昇叙(31歳)。綱吉が柳沢邸訪問 1692年 6万2000石 1694年 7万2000石 武蔵国川越藩主となり、老中格・侍従 1698年 大老が任ぜられる左近衛権少将に就任 「泰平の世で出世をするのは、金と女を使うに限る」 綱吉に対する気遣い、男色関係との説あり。 →やり手・抜け目ない・嫌われないタイプ? https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9F%B3%E6%B2%A2%E5%90%89%E4%BF%9D</p>
老中 5人	<p>阿部正武 (52歳)1681-1704 就任 忍藩主「善人の良将」 土屋政直 (61歳)1687-1718 就任 土浦藩主 小笠原長重(51歳)1697-1705 就任 岩槻藩 秋元喬知 (52歳)1699-1714 就任 川越藩 稲葉正往 (62歳)1701-1711 就任 佐倉藩</p>
桂昌院 (74歳)	<p>1627-1705年 1702年、従一位を叙任し藤原光子の名を賜る。従三位が通例だった https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A1%82%E6%98%8C%E9%99%A2</p>
大沢基恒 (死没)	<p>1656年-1697年 右京大夫 初代高家肝煎の一人、吉良上野介より15歳若いのが41歳で死去</p>
畠山義里 (死没)	<p>1621年-1691年 飛騨守 初代高家肝煎の一人、吉良上野介より20歳年上、70歳で死去 畠山義寧の父</p>
畠山義寧 (37歳)	<p>従五位下 侍従 下総守 畠山義里の息子。13年前(24歳)に綱吉の不興を買って小姓から表高家に戻る。7年前に拝謁を許され、2年前に奥高家に昇格。 現場にいて品川伊氏と共に吉良上野介を運ぶ。上杉綱憲の復讐を諫めた https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E7%95%A0%E5%B1%B1%E7%BE%A9%E5%AF%A7</p>
畠山基玄 (65歳)	<p>従四位上 侍従 民部大輔 綱吉に気に入られて、高家を離れて側用人になるが1691年に免職。 1696年 高家復歸、1697年 高家肝煎に就任 https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E7%95%A0%E5%B1%B1%E5%9F%BA%E7%8E%84</p>
大友義孝 (61歳)	<p>1641年-1711年(70歳没) 従四位下 侍従 近江守 1000石 1688年表高家、1689年高家職に就く(48歳)、1697年 高家肝煎に就任(56歳) 吉良上野介と親密だったため事件後に高家肝煎を解任され寄合に戻される https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%8F%8B%E7%BE%A9%E5%AD</p>

	%9D#:~:text=%E5%A4%A7%E5%8F%8B%20%E7%BE%A9%E5%AD%9D%EF%BC%88%E3%81%8A%E3%81%8A%E3%81%A8%E3%82%82%20%E3%82%88,%E3%81%AB%E3%81%8B%E3%81%91%E3%81%A6%E3%81%AE%E9%AB%98%E5%AE%B6%E6%97%97%E6%9C%AC%E3%80%82
品川伊氏 (32 歳)	1669 年-1712 年(44 歳没) 従四位下 豊前守 1688 年、21 歳で高家職に就き、傷事件の際に畠山義寧と共に吉良上野介を蘇鉄の間に運んだ。1701 年 8 月高家肝煎就任(吉良上野介の後任?) https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%93%81%E5%B7%9D%E4%BC%8A%E6%B0%8F
柳原 資廉 (57 歳)	1644 年-1712 年(69 歳没) 権大納言 東山天皇の勅使、冷静に儀式続行を指示し、滞りなく執行させた
高野 保春 (51 歳)	1650 年-1712 年(63 歳没) 従二位 権中納言 東山天皇の勅使
清閑寺 熙定 (39 歳)	1662 年-1707 年(45 歳没) 従二位 権大納言 霊元天皇の院使(仙洞使)
大石内蔵助 良雄(42 歳)	1659 年-1702 年
大石頼母助 良重(死没)	1619 年-1683 年(65 歳没) 大石内蔵助の大叔父(養子なので形式上は叔父) 浅野内匠頭の一度目の饗応役の時には江戸にあって補佐役を務めた。 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E7%9F%B3%E8%89%AF%E9%87%8D
大野九郎兵衛	生没年不詳だがかなりの高齢、開城恭順を主張し、分配金の配分で孤立、逐電する
藤井又左衛門	大石内蔵助に次ぐ上席家老、大野と交替で江戸に詰める、事件時は江戸にいた
安井彦右衛門	生没年不詳 江戸詰家老 江戸急進派の盟主に薦められるが曖昧な態度を取る
建部喜六	生没年不詳 江戸留守居役
片岡源五衛門 (35 歳)	1667 年-1703 年 近習頭 内匠頭と同年齢で気が合った。男色関係とも。討入りへ

【梶川与惣兵衛筆記】(Wikipedia「梶川頼照」より抜粋)

梶川日記 (原文)

<https://ja.m.wikisource.org/wiki/%E6%A2%B6%E5%B7%9D%E6%97%A5%E8%A8%98>

自分はいつもどおり登城して大奥にいった。その日の奉答の儀式で自分は、御台所信子様への使いの役目があった。

しかし吉良上野介殿からの伝言を受けて勅使様の都合で儀式の刻限が早まったことを告げられたので、詳細を直接吉良殿にお伺いしようと思って吉良殿を探した。

松の廊下に面した下の御部屋にいた茶坊主に『吉良殿をお呼びせよ』と命じたが、その茶坊主は『吉良

上野介様は御老中に呼び出されました』と答えた。

そのとき勅使接待役の浅野内匠頭殿の姿が見えたので、自分はその茶坊主に『内匠頭殿をお呼びせよ』と命じた。それを受けて内匠頭殿が自分の方へ参られたので、自分は『諸事よろしく願いたします』とご挨拶申し上げた。

内匠頭殿は『心得ております』と答えられ、下の御部屋の自分の席に戻られた。

その後、大広間から白書院の方を見てみたら吉良上野介殿が白書院の方からこちらへ来られるのが見えた。そこで自分はふたたび茶坊主に『吉良殿をお呼びせよ』と命じた。

茶坊主はすぐに吉良殿の方へ行き、その伝言を受けた吉良殿の様子はよかろうと言った感じで、すぐに自分のところへ向かって来られた。

なので自分も吉良殿に近づき、松の廊下がまがったところにある角柱から6間から7間ぐらいのところで吉良殿と自分は対面した。

自分が『本日の勅使様の刻限が早まったのでしょうか』と吉良殿にお尋ねしていたところ、突然、誰だかはわからないが、吉良殿の後ろから『この間の遺恨を覚えているか』と声をかけてきて吉良殿に斬りかかった者がいた。

太刀の音はすごく大きく聞こえたが、のちに聞いたところでは傷はそれほど深くなくて浅手だったらしい。自分達も驚いてよく見れば、なんとそれは勅使御馳走役の浅野内匠頭殿であった。

上野介殿は後ろのほうへ逃げようとしたところをまた二回ほど斬られ、うつ向きに倒れられた。自分達は内匠頭殿に飛びかかった。内匠頭殿との間合いは二足か三足かという短いものであったので、すぐに組み付く形になったと記憶している。

自分達はまず内匠頭殿の刀を取り上げるとともに床に押し付けて動けなくした。そのうち近くにいた高家衆や院使御馳走役の伊達左京亮殿、また坊主どももやってきて次々と取り押さえに加わってくれた。

上野介殿はいつの間にかいなくなっていた。誰かが運んでくれたのか、周りにも見えなかった。

のちに聞いたところでは高家の品川豊前守殿と畠山下総守殿が上野介殿を引き起こしたが、ご老齢での負傷であるので、吉良殿にはほとんど意識がなくなっていて、この両名で御医師の間へ運んだということだそうである。

それより内匠頭殿は大広間の後ろのほうへ大勢に連れて行かれた。

そのとき内匠頭殿は『上野介には恨みがある。殿中であること、また今日は儀式であることに対して恐れ多いとは思ったが、仕方なく刃傷に及んだ。討ち果たさせてほしい』と幾度も繰り返して申しておられた。

しかしあまりにも大声であったので、高家衆をはじめ取り囲む人々から『もはや事は終わったのです。おだまりなさい。あまり大声では如何なものかと思えますよ』と言われたので、それ以降は内匠頭殿も何もいわなくなった。」

吉良が脇差を抜かなかったことを梶川が証言した

【日記の最後】

この事件のことを色々知ることになった今となれば、内匠頭殿の心中は察するにあまりある。吉良上野介殿を討てなかったことはさぞかしご無念であったろう。本当に不意のことだったので自分も前後の思

慮にまで及ばなかったのである。取り押さえたことは仕方なかった

→そのような議論は「朋友への義」に過ぎず、「上」に対してはこのような議論は無用だと弁明している

【内匠頭の弁明】

「自分は元来不肖の生まれなる上、持病のせん気があり、心を鎮めることもならずして場所柄もわきまえず不調法仕った」

【内匠頭から片岡源吾兵衛と磯貝十郎左衛門への遺言】

「此の段、兼ねて知らせ申すべく候得共、今日やむことを得ず候故、知らせ申さず候、不審に存ず可く候」(このことは予め知らせておくべきだったが、今日やむを得ざる事情で知らせる事ができなかった。不審に思うだろう)

↓以下は Wikipedia「浅野長矩」の「刃傷の理由」項より抜粋

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%85%E9%87%8E%E9%95%B7%E7%9F%A9>

『沾徳随筆』の中にある「浅野氏滅亡之濫觴」

「勅使饗応役の費用を浅野家は700両で提案し、浅野は吉良が不在だった2月に高家の畠山義寧に相談して了承を得ていたが、3月になってから吉良がこれに異議を唱え、費用を1200両とせよと命じたことで両者が不和になり、刃傷の原因となった」

→吉良が1200両と提案したのは一度目の御馳走人の時に対して元禄時代は大幅に物価が上がっていたため。ただし、浅野が一度目を御馳走人を務めた時の費用は400両とされ、当時、二倍ほどあがっていた物価に対する費用としては800両あたりが妥当で、1200両は一度目に較べると三倍の予算にあたり、当時の物価の上昇を考慮しても高額であるといえる。

『岡本元朝日記』

「風説によると、事前に浅野が吉良に畳替えに必要なか尋ねたところ、不要と言われ、先例を調べてもそのような先例がないので、浅野も納得してそのままにしておいた。

だが、前日の14日になって、老中の阿部正武に尋ねたら、新しくせよと、申されたところ吉良が言い出し、浅野はそれを聞いて狼狽して、老中に照会すべきことであれば、自分から聞き合わせたのに、あなたがそれを不要といった。

だからこそ、事前に聞き合わせ、必要があればそうしたというのに。それを先日は無用といったのに、今日になってそのようなことを言うとはどういうことか。すでに今日はこうして登城しており、明日朝のことをどうしたら良いというのか。と問いただしたところ、義央はあらゆることに、客齋では御馳走は勤まらないと返答した。これが長矩の意趣であると取り沙汰している」

【浅野家の指南料】

黄金1枚(元禄大判1枚=約100万円)・巻絹1台・鯉節一連

指南料の相場=はじめに「御馬代」といった名目で大判金を1枚、無事に役目を果たした後に、さらに大判金1枚を贈るのが慣例=浅野の額はそれほど少なくはない

【伊達家の指南料】

大判 100 枚 (約 1 億円)・加賀絹数巻・狩野探幽の竜虎の双幅
(Wikipedia「吉良義央」の備考「当時の賄賂」より)

【饗応役の日程】

3/11

勅使 伝奏屋敷入り 丑の刻(2時)から大紋の礼装で接待、卯の刻(6時)には座で待機、7時半頃に勅使が玄関に到着、副将軍 水戸綱条が挨拶。

辰の刻(8時)昼食を出す、その後勅使を詩歌音曲でもてなす

3/12

御対面日 江戸城の白書院で聖旨を将軍に伝え、恩賜の品を賜る。

天皇と院からそれぞれ御太刀一腰、御馬代黄金三枚、女院、女御、大宮から将軍へそれぞれ黄金一枚。

その後で大宴会 白書院：勅使・院使、帝鑑の間：親藩・譜代衆、大大名 三汁九菜

柳の間、芙蓉の間：高家、法印、法眼以上の御殿医など 三汁八菜

老中土屋政直が取り仕切り、饗応役は勅使らの送迎。正午には伝奏屋敷に戻る。

大友義孝が酒肴を贈る

3/13 御能日 9時から16時まで能

3/14 勅答の儀 饗応役は儀式が終わるまで下之御部屋で待機

堺屋太一「峠の群像」では、御返答の儀の後で御生母および御台様が出席し、御生母は天朝に謝す和歌を詠むことが急に決まったため当日の時間変更になったとしている。

【参考リンク】

浅野内匠頭が江戸城・松の廊下で刃傷事件を起こした原因は何だったのか

<https://shibayan1954.blog.fc2.com/blog-entry-149.html>

江戸城松の廊下刃傷事件・元禄赤穂事件の発端

<https://akoinfo.com/akogisi/ninjoujiken/ninjoujiken.html>

Wikipedia 赤穂事件

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%A4%E7%A9%82%E4%BA%8B%E4%BB%B6>

Wikipedia 饗応役

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E9%A5%97%E5%BF%9C%E5%BD%B9>

勅使饗応はどのように行われるか

<https://wheatbaku.exblog.jp/19828925/>

武家伝奏と高家

https://glim-re.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=4110&file_id=37&file_no=1

高家シリーズ

<http://kakei-joukaku.la.coocan.jp/Japan/sub1-5.htm>

菊池寛「吉良上野介の立場」

https://www.aozora.gr.jp/cards/000083/files/487_19887.html

以上